

平成 29 年度 第 1 回 教育課程編成委員会(柔道整復学科)議事録

【日時】平成 29 年 9 月 20 日 (水) 18 時～19 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 伊藤 述史 (公益社団法人東京都柔道整復師会 会長)
小泉 利幸 (三進興産 営業部長)
深沢 篤 (みさと接骨院 チーフ)
道狭 浩子 (ひろこ整骨治療室 院長) 計 4 名
学校 奥田 久幸 (校長)
岸本 光正 (副校長)
木下 美聡 (フロンティア推進部長)
伊藤 恵里 (副学科長) 計 4 名
事務局 大友 員彦 (事務部長代行)
鈴木 裕之 (学務グループ兼教務グループ職員) 計 2 名
合計 11 名、敬称略

【欠席】委員 佐藤 和伸 (佐藤代田整骨院 院長) 計 1 名

< 議題 >

1. 日本医専の現状とこれから・意見の活用状況

カリキュラム改定に伴い、学校改革・教育改革のために取り組む必要性がある。存続も活発な意見を取り交わしたい。

前回のいただいた意見の活用状況として、社会人基礎力等の育成、態度・マナー教育、教育の双方向化について報告した。

(編成委員からの意見)

アーリーエクスポージャーについて、実習先との連携として、学生の事前資料等の共有があると、指導に活かすことができる。

2. 平成30年度カリキュラム変更に伴う教育内容改訂について

平成30年度カリキュラムの変更概要の共有と共に、実際のカリキュラム案を提示した。カリキュラムは学生の知識定着、単位取得を重視し、通年科目を減らし細分化した。外部の臨床実習施設充実させること、利便性・教育内容の充実を図るため、接骨院を本校舎へ移転することを説明し、意見交換した。

(編成委員からの意見)

- ・運動学・解剖学・生理学という科目を、学びの体系を重視して「人体の構造と機能」という科目にしたのは知識が身に付きやすいと思う。
- ・業界存続のためには仕方がない制度変更である。今後是对応できない学校は淘汰される。実際に夜間部の募集を廃止する学校もある。対応できている学校は心配ないと思うので、今後に期待している。

以上

平成 29 年度 第 1 回 教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】平成 29 年 9 月 21 日（木） 14 時～15 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員	菊池 優子	（貴子鍼灸治療室 副院長）	
	藤原 良次	（株式会社アールエフ 代表取締役）	
	前田 真也	（カリスタ株式会社 代表取締役）	
	前田 千尋	（カリスタ株式会社 院長）	
	鈴木 幸次郎	（日本内経医学会 運営委員）	計 5 名
学校	奥田 久幸	（校長）	
	岸本 光正	（副校長）	
	青木 春美	（学科長）	
	三村 聡	（学科教員、議長）	
	渡邊 靖弘	（学科教員）	計 5 名
事務局	鈴木 裕之	（学務グループ兼教務グループ）	計 1 名
	合計 11 名、敬称略		

【欠席】事務局 大友 員彦 （事務部長代行）

< 議題 >

新役員を交えて、自己紹介を行った。

1. 日本医専の現状とこれから・意見の活用状況

カリキュラム改定に伴い、学校改革・教育改革のために取り組む必要がある。存続も活発な意見を取り交わしたい。

前回のいただいた意見の活用状況として、コミュニケーション教育、教職員のモチベーション向上施策について報告した。

2. 平成 30 年度カリキュラム変更に伴う教育内容改訂について

平成 30 年度カリキュラムの変更概要の共有と共に、実際のカリキュラム案を提示した。カリキュラムは学生の知識定着、単位取得を重視し、通年科目を減らし細分化した。実習系カリキュラムについて、本校のポリシーに基づいた講義内容について説明し、意見交換した。

3. 質疑応答

(学校からの質問事項)

- ・学校に対して、就職時点としてどの実技水準までを求めているか。

(委員の回答)

- ・社会人基礎力をしっかりと身につけていただきたい。
- ・治療に来てもらい、帰るまでに何を提供できるか。来院時の対応についてしっかりと身に付けていただきたい。
- ・技術は高度なものは求めている。
- ・資格を取ることが学校の最低限の責務。
- ・コミュニケーション能力の養成
 - 質問に対して的確に答えること
 - 求められている治療を行うための能力
 - 傾聴力
- ・サービスとして、治療時に笑顔でいること。
- ・経営者としては集客力がある人材(=笑顔、コミュニケーション能力)を求めている。
- ・理屈の通った説明、治療について説明できる人材。治療に対していろいろな選択肢を持てるような知識を養成してほしい。

(委員の意見・質問)

- ・鍼灸の治療院のロコミサイトを運営しているので、そちらに掲載してみたらどうか。現在月間に東京都で22万人が鍼灸治療を探すために利用している。

(学校の回答)

- ・ぜひ利用させていただきたい。学校としての規約を確認しつつ、実施に向けて検討したい。

(委員の意見・質問)

- ・新卒の入職時に教えることは、治療に対する姿勢と考え方について教えている。実技は手力・脈力から教えている。(触られて心地よい手なのか)

(学校の回答)

- ・学力と共に態度面の養成についても課題を感じている。信頼を得るためにどこまでのことが実践できるか。掃除の大切さなどについて、現場の意見を活用しながら指導していきたい。

(委員の意見／質問)

- ・ 附属の治療院での実習効率（授業時間にどの程度患者を診ることができるのか）。

(学校の回答)

- ・ 1回の授業に対し1名の患者数。患者1人あたり、4名の学生を見学させている。

(委員の意見／質問)

- ・ 卒業生の就職者に対して在学時にしておきたかったことを質問したところ、「実際に学生自身が患者に質問や触れたりする経験をするのであればよかった。」という意見があった。学校の対応としてはどうか。

(学校の回答)

- ・ 以前は選択授業であった。現在は必修化し、授業では教員の指導の下、触れられる機会を全員に提供できるようになった。

(委員の意見／質問)

- ・ 実技授業の際に、患者の情報を事前に得ることはできるのか。そのほうが準備して臨むことができるのではないのか。経験がないと引き出しがないので、事前準備が大事ではないのか。治療に向けて調べることも勉強の一環だと感じる。

(学校の回答)

- ・ 現在は患者の情報を会話から引き出すことを目的として実習を行っており、事前に情報を提供していなかった。
- ・ 医療面接と治療実習を別々の科目として組まないといけないカリキュラムとなっているので、実習時に工夫が必要である。
- ・ 患者の状態を把握するコミュニケーション能力と、引き出した情報に対して治療方法を考える能力の2点を、実習で身に付けていく能力として検討していきたい。

以上

平成 29 年度 第2回 教育課程編成委員会(柔道整復学科)議事録

【日時】平成 30 年 2 月 14 日 (水) 18 時～19 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 伊藤 述史 (公益社団法人東京都柔道整復師会 会長)
小泉 利幸 (三進興産 営業部長)
佐藤 和伸 (佐藤代田整骨院 院長)
道狭 浩子 (ひろこ整骨治療室 院長) 計 4 名
学校 奥田 久幸 (校長)
岸本 光正 (副校長)
木下 美聡 (フロンティア推進部長)
伊藤 恵里 (副学科長) 計 4 名
事務局 大友 員彦 (事務部長代行)
鈴木 裕之 (学務グループ兼教務グループ職員) 計 2 名
合計 11 名、敬称略

【欠席】委員 深沢 篤 (みさと接骨院 チーフ) 計 1 名

< 議題 >

1. 日本医専の現状とこれから・意見の活用状況

臨床実習に向けて意見を取り入れた活用ができるよう、引き続き検討していきたい。

専門実践教育訓練給付金の対象となるための取組について、国家試験合格率、中退率を中心に対策を行い、条件を満たすように取り組んでいく。

2. 平成 30 年度教育内容について

・H30 年度カリキュラムと課外プログラムについての説明

新カリキュラムについて、具体的な時間割を提示して説明した。

授業外で実施する課外プログラムについて説明した。国家試験対策、認定実技試験の対策を含めて、学生の学習支援、担任を超えたサポート、学生募集の魅力出しとして実施を予定している。

- ・臨床実習について

次年度臨床実習について、大枠の方針を報告した。

授業外で実施する実習について、各学年での目的と実習先候補を説明した。

- ・新カリキュラム対応に伴う本校舎の改修について

新カリキュラム対応に伴い、第二校舎に設置していた接骨院を本校舎に移設した。

接骨院、鍼灸院の治療スペースを拡張した。

カリキュラムの変更に伴い、基礎医学実習室が不要となるので、パーテーションで分割できる普通教室として改修した。

(編成委員からの意見)

国試対策トレーニングと小竹塾はどのように違うのか。

(学校からの回答)

内容は今後詰めていく予定だが、担当する人員が専任教員と外部の専門業者とで異なる。

春から国試対策をすることで、十分に対策する期間を設ける。

(編成委員からの意見)

国試対策への参加の強制力はあるのか。

(学校からの回答)

強制力はないが、学習進度に応じて参加できるよう、コースを分けて参加を促す予定。

「BASIC」対象者が中退者、休学者の候補にもなっているので、特に力を入れていきたい。

(編成委員からの意見)

新カリキュラムからの画像診断は反映されているのか。

(学校からの回答)

2年からの授業としてカリキュラムを組んでいる。

(編成委員からの意見)

開業について、開業の方法だけでなく資金集めについても教えているのか。

(学校からの回答)

まだ詳細は詰め切れていないが、開業に必要な情報は一通り網羅できるようセミナーを開催する予定。

(編成委員からの意見)

臨床実習や卒後研修も加わり、今後より意識の高い人が集まってくる状況となる。
入学に対してハードルは高くなるのではないかと心配ではある。

以上

平成 29 年度 第2回 教育課程編成委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】平成 30 年 2 月 15 日（木） 14 時～15 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員	菊池 優子	（貴子鍼灸治療室 副院長）	
	藤原 良次	（株式会社アールエフ 代表取締役）	
	前田 真也	（カリスタ株式会社 代表取締役）	
	前田 千尋	（カリスタ株式会社 院長）	
	鈴木 幸次郎	（日本内経医学会 運営委員）	計 5 名
学校	奥田 久幸	（校長）	
	岸本 光正	（副校長）	
	青木 春美	（学科長）	
	三村 聡	（学科教員、議長）	
	渡邊 靖弘	（学科教員）	計 5 名
事務局	大友 員彦	（事務部長代行）	
	鈴木 裕之	（学務グループ兼教務グループ）	計 2 名
	合計 12 名、敬称略		

< 議題 >

1. 日本医専の現状とこれから・意見の活用状況

専門実践教育訓練給付金の対象校となるため、中退率等を改善する取り組みを行っていく。学習支援や生活習慣の指導も含めて教員が対応している。また、外国人向けには言語、生活環境面のフォローのための役割を拡充させた。

前回のいただいた意見の活用状況として、コミュニケーション教育、臨床実習教育について報告した。

2. 平成 30 年度の教育内容について

平成 30 年度の教育内容について、実際の時間割を提示して説明した。

新カリキュラムは、4つの期に分けた授業単位としている。

美容医療の体験談、ビフォー・アフターの掲載を禁止する広告制限があった
(6月施行) ホームページの広告の対象とみなす。(良いものしか書かれない)
口コミサイトは良し悪しが書かれるので、広告の対象にはならないとの見解がある。

3. 質疑応答

(委員の意見・質問)

専任教員は予約の時のみ待機しているのか。

(学校の回答)

営業時間には2名体制で待機し、予約外の治療も対応できるようにする。

(委員の意見・質問)

学生のモチベーションや意欲について聞き取る機会として、学生への施術を活用したらどうか。そのためには金額設定が少し高いような気がする。

(学校の回答)

現在金額についての不満の声は現状ないが、上記のような機会を設ける目的としての金額設定も検討していきたい。

(委員の意見・質問)

臨床実習時に教えているコミュニケーション能力はどのような内容か。

(学校の回答)

現行カリキュラムでは、新規開業を想定したグループワークを行っている。
新規カリキュラムでは、医療面接と心理学、行動科学の側面から教えている。

(委員の意見／質問)

先生力(説明する力)、聞く力、プッシュとプルのコミュニケーションが大事。
治療を考える上では生活環境を聞き取ることが重要。

(委員の意見／質問)

学生に対する対応は充実しているように感じるが、教員への教育や対応、準備状況はどうか。

(学校の回答)

臨床実習を行う教員は、臨床経験が5年以上ある教員が担当している。
ただ患者を診ることを教えるだけでなく、カリキュラムを把握した専任教員が教えることで、より教育効果のある実習とする。

(委員の意見／質問)

1日10人の営業だと、経営上は失敗するので、教員に集客の目標を定めた方が良いのではないか。

(学校の回答)

現在はベッドの台数が少なく、稼働率が低い。また、卒後臨床教育も兼ねているので、回転率も通常の鍼灸院よりは低くなっている。
今後はベッドも増やし、同時に施術することも可能になるので、回転率も向上する見込みである。

(委員の意見／質問)

教員に対しても、学生を引っ張っていけるリーダーシップの教育が必要になると思う。
学校にはその教育体制をお願いしたい。

(学校の回答)

次年度は教職員の研修費用を1人当たり設ける予定。個人の希望に応じた研修を受けることができ、教員の技術力向上が見込まれる。

以上